

大規模なサイバー攻撃

2010年
7月 イランの核施設へ

11年
4月 ソニー米

9月

サイバー攻撃の脅威が増大

(シマンテックの2012年調査)

防御できたサイバー攻撃 5

ウイルス付きのメール 239

ウイルスの種類 4

新しく見つかったソフトの欠陥 49

グラフィックス 吐田エマ

サイバー攻撃

組織化・大

政府や企業のコンピュータ荷をかけて機能不全に陥れた報を盗み出したりする行為。多かったが、最近では金銭をによるものや、軍が主導して「サイバー戦争」など、大っている。

標的型攻撃の場合、警察庁府機関や日本企業に計1009件ことをつかんだ。発覚しなかつてみられる。政府は情報セ会議を設置し、官民連携で戦練を進めているが、「標的型(内閣官房幹部)と危機感を

ナゾ謎 かがく

黄砂でアレルギー悪化?

（値は100万分の1）
前後。普通のマスクで十分に防げそうだが、必ずしもうまくいかない。
花粉が割れて細かく砕け散るからだ。

花粉は殻のようなもので覆われているが、何らかのきっかけで水分を吸い込むと破裂する。その際に表面付近のアレルギー物質が飛び散り、続いで内部のアレルギー物質も外に出る。破裂はPM 2.5より小さいものも多い。

花粉破裂、原因物質が拡散

ムなどのカルシウム塩の破壊力が大きいことが、スギ花粉を使った実験でわかった。カルシウム成分を持つ代表的な粒子が黄砂だ。表面で汚染物質と反応すれば硫酸カルシウムなどができる。実際に黄砂の飛来時に降った雨の成分を測定すると、

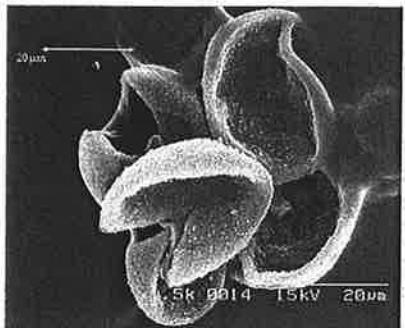
るので、アレルギー物質は飛びにくい。しかし翌日晴れあがり、風があると壊れた花粉が乾燥して一気に飛び散る恐れがある。

気象業務支援センターの村山貢司・専任主任技師によると、雨上がりにはただでさえ花粉が飛びやすい。雨でつぶみが開かずたまっていた花粉がまとめて飛び出すからだ。花粉の表面に汚染物質がくっついていると、花粉症を悪化させるとの報告もある。

ヒノキ花粉の場

合も、スギと同じような条件で花粉症を悪化させる可能性が高い。霧雨など弱い雨と黄砂の組み合わせが最も悪だという。

春の空は微小粒子状物質（PM2.5）などの大気汚染物質に黄砂、花粉などが混ざりあって漂う場合も多い。これらが互いに影響し合うとアレルギーの原因物質が出やすくなり、花粉症の悪化につながるらしいことが分かってきた。今春のスギ花粉の飛散は多くの地域で峰を越えつつあるが、ヒノキ花粉はなお多い。北海道ではシラカバの花粉も飛ぶ。スギ花粉の大きさは30



（王青躍准教授提供）

アレルギー物質の濃度が高かつた。ヒノキ花粉の場合も、スギと同じような条件で花粉症を悪化させる可能性が高い。霧雨など弱い雨と黄砂の組み合わせが最も悪だといふ。土砂降りの日に花粉も黄砂も大部分が洗い流され

る。この間に花粉が運ばれる間には表面で様々な化学反応が起きる。加えて多くの微生物が付着しており、アレルギー反応を起こすものもあるようだ。これらが花粉症の悪化にどう影響するのか、解明が待たれる。

（編集委員 安藤淳）

小林製薬の通信販売

アルギニン + ピクノジェノール®

米国特許!
日本上陸!

詳しくは
エディケア 実感

検索



【内容量】180粒(約15~30日分)(600mg×3粒)×60袋(タブレット)

*特許番号:US6,565,851 (プロアントシアニジン(活性成分)とL-アルギニンまたはその塩(一般化成性物質)の同時配合に関する特許)

『エディケア』好評発売中!!

※個人の感想であり、本品を摂取した後の体感には個人差があります。

奈良県、51歳、A-U様

希望の灯火を実感しています。
沖縄県、66歳、K-I様